

最優秀賞（京都府知事賞）

北方領土問題を考えて

京都府立鴨沂高等学校
三年 石田 裕貴

「北方領土問題」、それは日本が抱える大きな課題です。戦後七十年近く過ぎた今も、日本固有の領土は、ロシアに不法占拠されたままです。

私が北方領土問題に興味を持ったのは、父から聞いた祖父の戦争体験からです。私の祖父は、戦争中樺太方面で旧日本軍の衛兵でした。終戦間際に侵攻してきたソ連軍と戦ったそうです。結果はもちろん日本軍の敗走。まともにソ連軍と戦い勝つことなど不可能に近かったようです。その後、祖父はシベリアに抑留され、毎日死んでいく戦友のためにお経を唱え続けました。そして約三年近く苦しい抑留生活を送ったのです。

この話を聞いたとき、私は「祖父は大変な思いをしたんだ。」と思うと同時に、祖父が直接ソ連軍と戦った事実があることを知り、私自身にとってもこの事実が意味のある出来事のように感じました。こうして祖父の過去に触れたことが、改めて北方領土問題を自らに関わることとして考えるきっかけになったのです。

戦後のソ連軍による不法占拠により、強制的に退去させられたり、悲惨な目に遭った人々は、軍民併せて約六万人以上いるといわれています。戦後GHQによる日本占領が終わり、昭和二十七年四月、日本が主権を回復し、独立国家として国際社会に復帰したにもかかわらず、米ソによる東西両陣営の対立により、ソ連との北方領土返還交渉は極めて難しく厳しい交渉となり

ました。

そして、この不法占拠はロシア連邦に引き継がれ、現在も返還交渉は手詰まり状態です。この間の経過を見ると、北方領土が見捨てられた状況といっても過言ではありません。

私は、ロシアが北方領土の返還に応じない理由は二点あると思います。まず一点目はこれらの島々には資源（陸上・海洋）が豊富で価値の高い大自然が遺されていることがあげられます。二点目は、地政学的に千島列島はオホーツク海から太平洋への入口になっており、いわば北方四島などは「蓋」の役目をしていると考えるからです。

思い出してください。昭和二十六年、サンフランシスコ平和条約で日本は千島列島を放棄しましたが北方四島は千島列島に含まれていない明確な事実が存在しています。けれども平和条約に調印しなかったソ連はそれを逆手にとって不法占拠を続けています。このように卑怯で都合のよい解釈により、解決の糸口が見いだせない状態が、今日まで続いているのです。

祖父の戦争体験から興味を持った北方領土問題。調べれば調べるほど、複雑で解決には難しい条件が積み重なっていることもわかってきました。ロシアの前大統領メドベージェフ氏が、国後島に上陸し「北方領土はロシアのものだ」とはつきり言っていることもその表れの一つです。

現在日本は、「北方領土問題」以外にも「竹島」「尖閣諸島」といった課題を抱えています。私たちの世代は、祖父の世代から引き継いだ問題を、祖父の世代とは違った平和的な交渉によって解決する責務を背負っているのです。それが、祖父から受け継いだ私の役割です。

最優秀賞（京都市長賞）

平和的な解決に向けて

京都市立嵯峨中学校
三年 田中 亜門

母が子どもの頃、「北方領土は、我が国の領土です」というキッチコピのコマールが、テレビで毎日のように流れていたそうです。ニュースや新聞記事ではなく、コマールだったということにも驚きますが、約四十年も経った今でも、解決していないことにとっても驚かされます。この期間で、解決に向けて両国の関係は、どのくらいの進展をみせることになったのでしょうか。

以前、私はテレビのニュースで、安倍首相とプーチン大統領が会談の後、握手している場面を目にしました。近い将来、四島すべてが日本に返還されることは叶わなくても、四島のうちの何島かは間もなく返還されるようになり、ロシアと政治や経済で強く結びついていけるものだと思っていました。しかし、最近のニュースでは、北方領土に住むロシア人のために、病院や学校などのインフラが島中に整備されていき、工場も建設されていました。日本人が、これらの島に戻っていける余地は残されていないかと思わせるほどで、期待を裏切られたように感じ、私は強いショックを受けました。今後、北方領土は、本当に日本へ返還されるのでしょうか。

私は日本人によって開拓され、多くの日本人が住んでいた島々を元島民の人たちに返してほしいと思っています。しかし、これが実現すれば、ひとつ問題とな

ることがあります。それは、今も住み続けているロシア人を北方領土から追い出すことです。そして、ロシア住民から故郷や島での生活を取り上げることで、もちろん、原因はソ連による違法な占拠と日本人を強制的に追い出したことによるものですが、現在のロシア住民が悪いわけではありません。そこで、私は両国の人々が納得できる平和的な解決方法を考えてみました。

北方領土は、日本の領土ではあるが、特別な地区とし、どちらの国籍の人でも住むことのできる島としてはどうでしょうか。また、領土問題で、よく紛争の原因となる資源においても日本とロシアの両国が協力して開発し、利益を共有する。実現するのは難しいかもしれませんが、互いに妥協点を見つけていかなければ、この先もずっと解決しない両国間の課題となってしまう。

今の世界を見ていると多くの国で、いくつもの人種や民族が混ざり合っています。今後、日本でも仕事や生活は、ますますグローバル化していきます。私の住む京都では、たくさんの方の外国人たちを毎日のように見かけます。この人たちの多くは、日本や京都が大好きだと言ってくれ、とてもうれしく思います。人と人の間に壁はありません。政治的な問題がなくなれば、もっと仲良くなれるはずです。私が大人になる頃には、北方領土で両国の人たちはほのぼのと交流している姿が、普通に見られるようになっており、ロシアをもっと身近な国だと実感できるようになっていきます。私は、これらを実現していきたいと考えています。